

日本東亞同文書院編

(第三十八冊)

中國省別全志

綫裝書局

图书在版编目 (C I P) 数据

中国省别全志:全 56 册:中文、日文 / 日本东亚同文书

院编.--影印本.--北京:线装书局,2015.4

ISBN 978-7-5120-1778-8

I. ①中… II. ①日… III. ①地方史—史料—中国—
1907 ~ 1918 —汉文、日文②地方史—史料—中国—1941
~ 1949 —汉文、日文 IV. ① K29

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2015) 第 048917 号

中国省别全志

主 编

日本东亚同文书院

责任编辑

赵 鹰

出版发行

线装书局

地 址 北京市西城区鼓楼西大街四一号

邮 编 一〇〇〇〇九

电 话 六四〇四五二八三

网 址 www.xzhbc.com

三河友邦彩色印装有限公司

一一三四〇千字

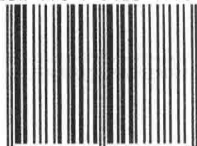
二〇〇〇

二〇一五年四月第一版第一次印刷

四〇套

四二〇〇〇元 (全五十六册)

ISBN 978-7-5120-1778-8



9 787512 017788 >

第三十八冊

第一卷 四川省（上）（二） 昭和十六年 一九四一年 東亞同文會……………一

第一卷

四川省

(上)
(二)

昭和十六年
一九四一年
東亞同文會

四

第一

卷

風

省

(上)

(二)

東亞同文會

一八四一年

即味十六年

第三編 都市

第一章 概説

四川省は省政府を成都市に置き、重慶は特別市として中央政府行政院に直屬し、重慶及び萬縣を條約に依る開市場としてゐる。成都市及び重慶特別市を除き全省を十六區に分ち各區に五縣乃至十縣を包含し、全省占三十一縣及び四分縣がある。

省城成都は岷江の上流にあり、政治の中心をなして居り、重慶は揚子江と嘉陵江との合流點に位し、その下流の萬縣と共に産業貿易の中心を爲す。その他繁華の都市としては揚子江沿岸に奉節、涪陵、江津、合江、瀘縣、宜賓等あり、嘉陵江沿岸に合川、南充、南部、閬中、その支流たる渠江沿岸には廣安、渠縣、達縣、涪江沿岸には遂寧、太和鎮、三台、綿陽等がある。さらに沱江沿岸に富順、自流井、內江、資中、資陽、趙家渡等、岷江沿岸に犍爲、樂山、眉山、新津等がある。また揚子江南側には黔江、龔潭、南川、綦江、叙永等の各都市がある。いま省城成都市、開市場重慶特別市及び萬縣並に各縣城及び分縣所在地につきその概況を述べれば次ぎの通りである。

第二章 都市概況

第一節 省城及開市場

第一省 城

一、成 都（市）

(1) 位置、沿革

成都市は四川沃野の中央部に位し、所謂成都盆地に在り、蜀漢の故都、漢の益州、唐の劍南の地である。

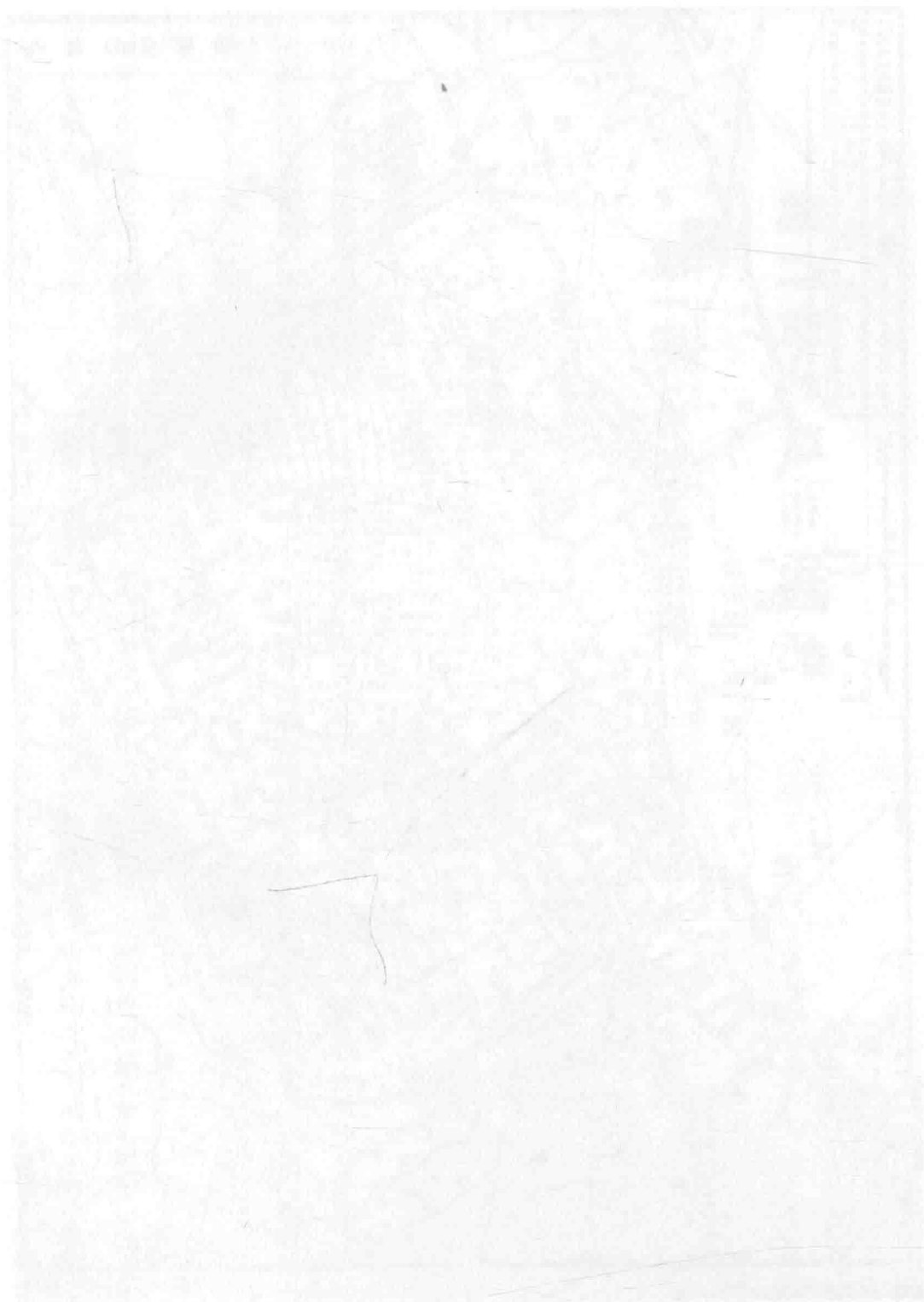
成都は四川省政府の所在地であつて、民國十九年成都、華陽の兩縣を合併して成都市と爲し、省政府の直轄とした。

(2) 市 街

城壁の高さ三丈餘、底部の厚さ一丈七、八尺、上部の厚さ一丈六尺である。城壁の外面は大なる磚を用ひ、内
部は土を積み、その周圍十八公里（秆）と稱せらる。外城は略々四角形をなし、東西南北の四門がある。北東南
の三方は河水これを繞り、その南方の一河は所謂錦江である。これ等の諸水は城の東南角に於て會し、南流して



成都府明細圖



岷江に合流す。

城内には成都縣、華陽縣の二縣があつたが、民國十九年この兩縣を合併して成都市と爲し市制を施行してゐること前述の通りである。

成都は古から錦城または芙蓉城と呼ばれ、四川人は小巴里と誇稱して居り、西部支那に於ける最も繁華な都會である。元と大城、内城に分れて居たが、民國十三年内城の城壁を取拂つた。市街は滿洲城及び成都、華陽兩縣の北半部を除く外は、概して亂雜で、小街または某某巷と名づくる街に入りては最も複雑を極めてゐたが、近來市區改正を斷行し馬路を修築し、各種の車輛が通行し得るやうになつた。最も繁榮な街路は蜀漢皇城より東門に通ずる東大街で、道幅凡そ八、九間、一面に石を敷きつめ、兩側には綢緞舖、正布舖、洋廣雜貨舖、首飾舖等の商家が軒を並べて連らなり、毎夜露店が出る。露店の商人は各街より出で來るもので我が國の縁日商人の如く、その賣品は多種多様にして書畫、骨董、文房具店等が大部分を占め、世帶道具、玩具、飲食店等に至るまで備はつてゐる。春熙路、南大街、北大街、皇城壩、暑襪街、打金街、總府街、商業場これに次ぎ、總府街には近代的の商店多く新聞社、書店、茶肆、戲場、映畫館等あり、娛樂街を形成してゐる。商業場には錦華館、昌福館等の百貨店あり、その設備の整へること並に商品の充實して居ること見るべきものがある。

市街交通機關としては、従前は街路狭く亂雜を極めてゐたためたゞ轎子があるのみであつたが、現今では自動車、人力車が利用せられ、殊に人力車は城内外均しく通行し得るやうになつたので一般に頗る便利である。

(3) 人口、氣候

人口は未だ完全なる戸口調査行はれず正確なる數は得難きも、一般に百萬と云ひ或は七十萬と稱せられる。また各城門より運び込まるゝ米穀その他の食糧品より推算して人口實數五十萬を超えざるものとも見られてゐる。氣候は概して溫和にして夏季最高華氏九十七度内外、冬季最低四十度内外である。

成都	戸數	人口	毎戸平均
----	----	----	------

全市	一〇七、九〇〇	五三一、〇七六	四・八五
----	---------	---------	------

(4) 教育、新聞

成都の教育は明治三十六年に於ける本邦人教習の招聘を以て新教育の發端となすことが出来る。それ以前に西洋人宣教師の塾の如きものがあつたが、概して未だ新教育の體を爲してゐなかつた。最初に聘せられた本邦人教習は武官三名にして、何れも武備學堂教官として軍事教育を擔當し新式軍隊編成の端緒を開いた。それと同時に高等學堂、東文學堂に邦人教習三名招聘せられ、それより漸次數を増し、四川の新教育は全く本邦人によつて開かれたと云ふも過言ではない

民國革命以來、四川に於ては兵亂相次ぎ、ために教育の發展を阻礙されること甚しかつたが、最近數年來漸次面目を一新し現在は教育頗る整備し學校數も極めて多く、專門學校以上のもの左の通りである。

國立成都大學、國立成都師範大學、公立四川大學、華西協合大學、藝術大學、岷江大學、民立大學、西南大學、其の他外國語學校、女子師範學校、慧系學校、商業專門學校、高等工業學校、華英女子中學院、陸軍測量學校、高級職業學校、醫學專門學校

成都に於ける新聞業は餘り振はず、前清光緒三十一年（明治三十八年）始めて日刊成都日報が發行され、現在川報、新中國日報、社會日報、國民公報等二十餘種あるも皆小規模のもので見るべきものはない。

(5) 公共施設

(イ) 水道 井戸は多數あるが悉く器具、衣服の洗滌に使用し、飲料水は江水を用ひてゐるので、水汲人夫は終日城外より水を運んでゐる。水汲の往來する所は常に泥濘化し不潔を極めてゐる。

光緒三十二年（明治三十九年）始めて水道を敷設した。水道管は大なる竹管を以てし、接合部は苧麻にて縛ひその上をセメントで塗つてゐる。各町の要所に貯水井を掘り、井の周圍及び底を板にて圍み、これに水を溜め一般人はこの井中より水を汲むのである。曲折せる所は樽を用ふ。水源は錦江にして先づ水車を以て江水を汲み上げ、市の隅にあるセメント製貯水池に貯水して置き、これから各街へ導く極めて原始的なものである。

(ロ) 電力 當市の電氣業は成都啓明電氣公司及び成都興業、水力發電廠の經營に係り、成都啓明電氣公司は前清宣統元年設立、同二年十二月より送電を開始し、漸次擴張して民國二十六年その完成を見たるものである。火力發電にして、出力三二七〇キロ、需用家數は電灯九千戸、電力二十餘戸である。

成都興業水力發電廠は水力發電にして出力五〇〇馬力である。

(6) 官 衙

各官衙の主なるものは次の如くである。

省政府（舊督院街）、建設廳（東大街）、民政廳（東大街）、財政廳（春熙東路）、市政府（鼓樓南街）、公安局（皇華

館街)、四川交渉署(北署機街)、四川郵政總局(南署機街)、成都電報局(文廟前街)、無線電台(春熙東路)

このほか外國領事館もある。

(7) 各國領事館

元來成都に開港地に非ざるため、當然領事の駐在することを許されざるにも拘らず、英佛獨各國總領事館は何れも成都に駐在し、重慶には副領事を置いて代理せしめてゐた。

(8) 在留外國人

外國人は四川省内各所に散在してゐるが、最も多數居留してゐる所は成都及び重慶である。成都に在留外國人は日英米獨佛の五ヶ國人にして、日本人を除く外國人は男女合せて百二十餘名である。最も多數なるは佛國人で六十餘名、英米獨人等これに次ぐ、その職業は大部分宣教師で、その他は學堂教習、商人、官吏、醫師等である。醫師は概ね宣教師がこれを兼ね醫業専門のものはない。領事若くは支那政府より招聘せられたる教習等の年限を以て在留するものゝ外は殆ど永住の氣持を以て廣大なる家屋に居住してゐる。

(9) 交通

鐵道 成都を起點する鐵道の計畫に左の如きものがある。

- (1) 川漢鐵路 成都より東南行し資中、巴縣、奉節を経て湖北省漢口に至るもので全長二千十六軒。
- (2) 同成鐵路 成都より東北行し劍閣、廣元を経て陝西省に入り山西省大同に至るもので全長千六百五十九軒
- (3) 川藏鐵路 成都より西行し新津、西康省の雅安、榮經を経て西藏に至るもの。

水運 水路は岷江の本支流により四通八達し舟運の利用すべきものが甚だ多い。唯水浅く灘多きため、民船及び竹筏を以てするものが多く、汽船は増水期には嘉定まで、減水期には叙州まで揚子江を溯るが成都までは達しない。成都より叙州に赴くのに増水期三日、減水期五日を要し、溯江には人力を以て曳行し約十日を費す。

陸路

(イ) 驛路 成都より四方に通ずる交通路の主なるものは左の通りである。

一、東大路 簡陽、資中を経て重慶に至るもの。

二、川北路 蓬溪、渠縣を経て萬縣に至るもの。

三、川西路 新津、邛崃を経て西康省雅安より打箭爐(康定)に至るもの。

四、川南路 眉山、樂山を経て宜賓に至るもの。

五、陝西路 新都、劍閣、昭化を経て陝西省漢中に至るもの。

(ロ) 公路 近時交通機關の發達は道路の開発を促がし、公路(自動車路)の計畫築造せられるもの多く、成都を中心として左の如き公路がある。

東路幹綫成萬段 (一、二七〇杆)

成都東門—簡陽—資陽—資中—內江—隆昌—榮昌—永川—璧山—重慶—江北—長壽—涪陵—鄧都—忠縣—

萬縣

南路幹綫成嘉段 (二二六杆)

成都南門—雙流—新津—彭山—眉山—青神—嘉定

西路幹綫成松段 (五五〇杆)

成都西門—灌縣—汶川—茂縣—松潘

北路幹綫成廣段 (四四〇杆)

成都北門—新都—廣漢—德陽—羅江—綿陽—梓潼—劍閣—昭化—廣元

北路支綫什段成都北門—新繁—彭縣—什邡 (八六杆)

北路支綫成趙段 成都—趙家渡 (五七杆)

成井支綫公路 成都—仁壽—井研 (一九〇杆)

成邛支綫公路 成都—溫江—崇慶—大邑—邛崃 (二〇〇杆)

(ハ) 航空路 商業飛行場は鳳凰山に在り、中國航空公司及び歐亞航空公司があつて各地との旅客輸送に従事してゐる。

中國航空公司

上海—漢口—重慶—成都間

一週二往復

成都—重慶間

一日一往復

歐亞航空公司

(10) 産 業

(イ) 商業 商業は甚だ殷盛にして西部四川物資の集散地であり、物産として蠶糸、菜油、土藥、湖縐、巴縐、寧綢緞、皮貨、竹器、藤器、椒器、香貨、落花生油、漆器等を産出する。

成都の商業地域は商品の種類別によつて各一ヶ所に同種の商業者が集まつて居り、即ち京貨店は華興街、東大街に、南貨は華興街、凍青街に、新衣舖は水花街、總府街に、錫器は打金街に、米市は東門城隍廟、南門火神廟、北門火神廟、西門石灰街等を集まつてゐる。

主なる物産の種類、價格及びその出廻時期等を示せば左の通りである。

農 産 物	類 別	物 産 名 稱	單 位		價 格		出 廻 時 季	年 額 搬 出 量	仕 向 地	備 考
			最 高	最 低	最 高	最 低				
農 産 物	農 産 物	川 芎	同	同	三〇・〇〇	二〇・〇〇	全 年	約 五、〇〇〇、〇〇〇 斤	赤永鎮、同州、渭南、潼關、定州	
農 産 物	農 産 物	澤 瀉	同	同	三〇・〇〇	二〇・〇〇	同	約 九〇〇、〇〇〇	同	
農 産 物	農 産 物	貝 母	每 斤	同	七〇・〇〇	四〇・〇〇	同	約 一四、五〇〇	香港、潮州、上海	
農 産 物	農 産 物	銀 耳	同	同	八〇・〇〇	六〇・〇〇	同	約 五、〇〇〇	南星橋	
農 産 物	農 産 物	蟲 草	同	同	一〇・〇〇	五・〇〇	同	約 五〇〇	上海	